

施設ヲ爲シ其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第六十六條 選鑛場、燒鑛場、製鍊場其ノ他ノ坑外作業場ニシテ著シク粉塵ヲ飛散スル場所ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一 粉塵ノ飛散ヲ防止スル爲撒水、粉塵ノ排出、機械又ハ裝置ノ密閉其ノ他適當ナル方法ヲ講スルコト

二 飲料水ヲ備置キ且粉塵ノ混入ヲ防ク施設ヲ爲スコト

三 洗面所及食事所ヲ設クルコト但シ作業場内ニ之ヲ設クル場合ニ於テハ粉塵防止ノ施設ヲ爲スヘシ

有害ナル粉塵ヲ飛散シ又ハ有害ナル瓦斯若ハ蒸氣ヲ發散スル坑外作業場ニ於テハ前項ノ施設ヲ爲ス外洗面所ニハ石鹼又ハ其ノ代用品ヲ備フヘシ

前項ノ場合ニ於テ鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ鑛業權者ニ對シ更衣所又ハ浴場ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第六十七條 鑛夫住宅ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一 住宅ニハ二方以上ニ出入口又ハ窓ヲ設クルコト

二 寢室及居間ノ天井高ハ二・二メートル以上ト爲スコト

三 寢室及居間ニハ天井ヲ設ケ又ハ屋根裏ヲ板張ト爲スコト

四 寢室ノ外窓ニハ雨戸及障子ヲ設ケ又ハ硝子戸及窓掛ヲ設クルコト

五 寢室ハ疊數ト爲スコト

六 寢室ノ面積(押入及床ノ間ヲ除ク)ハ一人ニ付二・四七平方メートル(疊一疊半)以上ト爲スコト但シ十歳未満ノ者ニ付テハ一人ニ付一・六五平方メートル(疊一疊)ト爲スコトヲ得

七 居住人員ノ數ニ應シ適當且十分ナル便所ヲ設クルコト

十人以上ノ鑛夫ヲ合宿セシムル鑛夫住宅ニ付テハ前項ノ規定ノ外左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一 就眠時間ヲ異ニスル二組以上ノ鑛夫ヲ合宿セシムル場合ニ於テハ交代ノ際睡眠ヲ妨害セサル様適當ナル施設ヲ爲スコト

二 寢具ヲ備フル場合ニ於テハ鑛夫毎ニ専用セシムルコト

三 合宿鑛夫ノ數ニ應シ適當且十分ナル洗面裝置ヲ設クルコト

特別ノ事由アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第六十八條 鑛夫ヲ合宿セシムル鑛夫住宅、食事所、休憩所等常時多數ノ鑛夫集合スル場屋ニハ液體ヲ容レタル唾壺ヲ備付クヘシ

第六十九條 採掘權者ハ作業場内ニ於ケル傷病者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ適當ナル場所ニ備付ケ且坑内保安係員其ノ他ノ係員ヲシテ其ノ使用方法及救急法ヲ習得セシムヘシ

第七十條 現ニ坑内ニ在ル鑛夫ノ數、氏名及就業場所ハ之ヲ坑外ニ於テ知り得ヘキ方法ヲ講スヘシ

第七十一條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ鑛業權者ニ對シ坑ノ内外及坑内主要箇所間ニ電話其ノ他ノ通信裝置ヲ命スルコトヲ得

第七十二條 危害豫防ノ爲又ハ衛生上ノ必要ニ基キ就業若ハ通行ヲ禁止セラレタル場所ニ濫リニ立入り又ハ危害豫防若ハ衛生ニ關スル設備ヲ毀損又ハ變更スルコトヲ得ス

第七十三條 瓦斯若ハ炭塵ノ爆發又ハ坑内ニ於ケル火災若ハ水害起リタル場合ニ於テハ其

ノ概況ヲ鑛山監督局長ニ急報スヘシ

前項以外ノ災害、事變ニ因リ死者、重傷者(症狀重篤ナル者及四週日以上休業見込ノ者)若ハ五人以上ノ負傷者(三日以上休業見込ノ者)ヲ生シタル場合又ハ死傷者ヲ生セサルトキト雖モ作業ノ全部若ハ一部ヲ休止シタル場合亦前項ニ同シ

前二項ノ災害、事變ニ付テハ其ノ經過及之ニ對スル處置ノ詳細ヲ様式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第七十四條 死傷病者ニ付テハ様式第二號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第七十五條 本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令中鑛夫ノ遵守スヘキ規定ハ其ノ要領ヲ平易ニ記シ之ヲ見易キ場所ニ揭示スル等鑛夫ニ周知セシムル方法ヲ講スヘシ

第七十六條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ建設物、工作物其ノ他ノ設備ニ付改造、修理其ノ他適當ナル處置ヲ命スルコトヲ得

第七十七條 鑛山監督局長ハ鑛業法第七十二條第一項若ハ第七十四條ニ基ク商工大臣ノ命令又ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ヲ執行スル爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ坑口ノ開鑿、坑道ノ掘進、鑛物ノ掘採若ハ捨石、鑛滓、坑水、廢水、鑛煙、瓦斯ノ處理又ハ衛生上ノ施設ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 本則ハ國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

附 則

本則ハ昭和五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ稼行スル鑛山ニシテ第一條第二項ノ規定ニ該當スルモノニ在リテハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ本則施行ノ日ヨリ一年間技術管理者ヲ選任セサルコトヲ得本則施行ノ際現ニ稼行スル鑛山ニ付テハ第十二條、第二十六條、第三十七條第三項、第五十七條乃至第五十九條、第六十一條、第六十三條及第六十四條ノ規定竝ニ第四十九條第二項中防火施設ニ關スル規定ハ本則施行ノ日ヨリ一年間之ヲ適用セス但シ第二十六條ノ規定ハ石炭坑爆發取締規則ノ適用ヲ受クル鑛山ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

本則施行ノ際現ニ存スル鑛夫住宅ニ付テハ第六十七條第一項第二號ノ規定ハ之ヲ適用セス

同條第一項第一號、第三號乃至第七號及第二項ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ三年間之ヲ適用セス

舊則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本則施行ノ際現ニ存スル第五十五條第一項ノ工作物ハ之ヲ本則ノ規定ニ依リテ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ工作物ハ舊則ノ規定ニ依リテ認可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノヲ除クノ外本則施行ノ日ヨリ六月以内ニ第五十五條第一項ニ掲クル事項ヲ具シ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ本則施行ノ際現ニ存スル第五十六條ノ工作物ニ付テハ舊則ニ依リテ届出ヲ爲シタルモノヲ除クノ外本則施行ノ日ヨリ六月以内ニ同條ニ掲クル事項（鑛夫住宅ニ付テハ同條第五號（九）ノ事項ヲ除ク）ヲ具シ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

様式第一號

災害事變報告

種 號	鑛區	縣探掘登錄第	號	鑛業權者又ハ代理人	住所	何	某印
	鑛山名						
災害發生年月日							
死傷者職名氏名 年齢及負傷程度							
災害箇所							
災害ノ原因							
擔任係員ノ災害 發生前巡視時刻 及其ノ狀況							
擔任係員ノ災害 ニ對シテノ狀況							
技術管理ノ者 ニ對シテノ狀況							
鑛業權者ノ死傷 者ニ對シテノ狀況							

鑛業權者ノ死傷者ニ對シテ 執リタル處置	
------------------------	--

備考 災害狀況ノ説明圖及死傷者ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ添附スルコト

樣式第二號ノ一

災害死傷者月報										昭和	年	月	分					
種 號	鑛區 番號	鑛山 名	探掘登錄第 式	號	鑛業權者又ハ 代理人	住所	何	某印	夫									
									死	負	傷	合	死	負	合			
事 由	回 數	男	女	計	休二以 男	女	計	休三以 男	女	計	男	女	計	係他	員ノ 其職	ノ員 傷	合 計	
																		男
落體又ハ側壁ノ崩 壞																		
瓦斯又ハ炭塵ノ爆 發																		
捲揚超過																		

石炭坑爆發取締規則

三十一〇

1. 本表ハ常時百五十人以上ノ鑛夫ヲ雇傭スル鑛山及鑛山監督局長ノ指定シタル鑛山ニ付之ヲ適用ス
2. 本表ハ前年分ヲ一月三十一迄ニ差出ヌコト
3. 本表ニハ鑛夫、保員其ノ他ノ職員ニシテ死亡シ又ハ三日以上休業シ醫療ヲ受ケタル者ヲ記入スルコト
4. 本表ニハ災害ニ因ル業務上ノ死傷者(災害死傷者月報ヲ以テ報告シタルモノ)ハ之ヲ記入セサルコト
5. 同時ニ二種以上ノ負傷又ハ疾病ヲ有スル者ニ付テハ其ノ主ナルモノ一種ノミヲ記入スルコト
6. 従業者平均員數欄ニハ各月末現在従業者員數ノ平均數ヲ記入スルコト

石炭坑爆發取締規則

改正 (昭和四年十二月十六日商工省令第二十二號)
昭和十六年五月十四日商工省令第四十六號

一條 可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵存スル石炭坑ニシテ商工大臣ノ指定スルモノニ付テハ鑛

業警察規則ノ外本則ヲ適用ス

第二條 通氣(局部通氣ヲ除ク)ハ扇風機ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ扇風機ハ之ヲ坑外ニ設クヘシ

第一項ノ扇風機ニハ自記回轉計又ハ自記電流計及自記氣壓測定器又ハ自記風速測定器ヲ備付ケ其ノ示度ニ異常アルトキハ遲滯ナク適當ナル處置ヲ爲スヘシ

第三條 入氣坑及排氣坑ハ各別ニ之ヲ設クヘシ

第四條 入氣坑口ニ於ケル通氣量ハ坑内ニ於テ同時ニ就業スル鑛夫ノ一日中ノ最大數ヲ標準トシ一人ニ付一分間三立方メートル以上ト爲スヘシ

第五條 坑内ニ於ケル通氣速度ハ一分間四百五十メートル以下ト爲スヘシ但シ堅坑及通氣専用坑道ニ於テハ一分間六百メートル迄之ヲ増加スルコトヲ得

第六條 排氣坑口ニ於ケル排氣中ノ可燃性瓦斯含有率ハ千分ノ五以下ト爲スヘシ

第七條 入氣堅坑、排氣堅坑間又ハ主要入氣坑道、主要排氣坑道間ヲ連絡スル坑道ニハ遮斷用ノ障若ハ戸ヲ設クヘシ

前項ノ障若ハ戸ハ堅牢ニシテ漏風ノ虞ナキモノト爲シ且戸ハ相當ノ間隔ヲ置キ二箇以上

石炭坑爆發取締規則

三一

設クヘシ

主要風橋ハ堅牢ニシテ漏風ノ虞ナキモノト爲スヘシ

第八條 交通頻繁ナル坑道及主要通氣坑道ニ設ケタル通氣戸ハ相當ノ間隔ヲ置キ二箇以上ト爲シ自働閉鎖裝置ヲ備ヘサルモノニ付テハ番人ヲ置クヘシ

第九條 石炭層中ニ坑道ヲ掘進スル場合ニ於テハ張出シ其ノ他之ニ類スル通氣裝置ハ長さ九十メートル以下ト爲スヘシ

第十條 可燃性瓦斯若ハ炭塵多量ニ存スル採掘跡又ハ自然發火ノ虞アル採掘跡ニハ充填、密閉、通氣其ノ他適當ナル處置ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ニ依リ通氣ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ排氣ハ切端又ハ交通頻繁ナル坑道ヲ通過セシムルコトヲ得ス

第十一條 鑛業警察規則第二十二條第一項ノ測定ハ鑛夫ノ入坑時前三時間以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十二條 坑内保安係員ハ總入氣量及總排氣量ヲ毎日、分流入氣量及分流排氣量ヲ七日毎ニ測定スヘシ但シ通氣ニ異常アリト認ムルトキ又ハ通氣系統ヲ變更シタルトキハ其ノ都

度之ヲ爲スヘシ

前項ノ測定ノ結果ハ之ヲ通氣簿ニ記入スヘシ

第十三條 坑内保安係員ハ坑内ニ於ケル通氣ノ方向又ハ分配ニ異常アリト認ムルトキハ遲滞ナク適當ナル處置ヲ爲シ之ヲ保安日誌ニ記入スヘシ

第十四條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ一分流通區ニ於ケル切端數又ハ就業鑛夫數ヲ制限スルコトヲ得

第十五條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ通氣ノ獨立、分流方法ノ變更、通氣坑道ノ開鑿又ハ扇風機用豫備原動機若ハ豫備扇風機ノ設置其ノ他通氣ニ關スル必要ナル處置ヲ命スルコトヲ得

第十六條 乾燥炭塵存スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 乾燥炭塵存スル坑道ニハ撒水又ハ岩粉ノ撒布ヲ爲スコト乾燥炭塵發生シ易キ切端ニ於テ採炭ヲ爲ストキ其ノ切端ニ付亦同シ
- 二 坑道ニ存スル炭塵ハ之ヲ掃除スルコト
- 三 切端ヨリ車道ニ石炭ヲ搬出スル器具、裝置又ハ方法ニシテ石炭ヲ散逸セシメ又ハ著

シク炭塵ヲ飛散セシムルモノニ付テハ適當ナル豫防方法ヲ講スルコト坑内ニ於テ使用スル炭車ニ付亦同シ

四 扉附炭車ハ坑内ニ於テ之ヲ使用セサルコト

五 炭車ニ積載シタル石炭ニハ坑内ノ適當ナル場所ニ於テ其ノ全面ニ撒水スルコト

六 選炭場ハ入氣坑口ニ接近シテ之ヲ設ケサルコト

前項第一號及第二號ニ掲クル事項ノ施行方法ニ付テハ鑛山監督局長ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ爆發ノ傳播ヲ防止スル爲岩粉地帯又ハ濕

潤地帯ノ設置其ノ他適當ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第十八條 鑛業權者ハ坑内ニ於テ使用スル爆發藥、雷管、導火線又ハ電氣點火器ノ種類ヲ

豫メ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第十九條 鑛業權者ハ發破係員ヲ選任スヘシ

第二十條 坑内ニ於テハ携帯用燈火トシテ安全燈及携帯用安全電燈以外ノモノヲ使用スル

コトヲ得ス

第二十一條 坑内保安係員又ハ發破係員ハ坑内ニ於テハ揮發油安全燈又ハ可燃性瓦斯檢定

器ヲ携帯スヘシ

第二十二條 安全燈ハ一日ノ入坑鑛夫中安全燈ヲ使用スル者ヲ通算シタル數以上ノ箇數ヲ備付クヘシ

鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ前番方ニ使用セシメタル安全燈ハ之ヲ次番方ニ使用セシムルコトヲ得ス

第二十三條 入坑者ニ付テハ入坑ノ都度坑口ニ於テ發火具、喫煙具又ハ煙草等ノ有無ニ付携帯品ヲ檢査スヘシ

第二十四條 新ニ採用シタル鑛夫ニハ可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵ノ爆發豫防ニ關スル事項ヲ説示スヘシ

可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵存スル石炭坑ノ坑内作業ニ經驗ナキ鑛夫ハ其ノ作業ニ熟練シタル者ノ指導ヲ受ケ三十日以上實習ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ單獨ニ坑内作業ニ從事セシムルコトヲ得ス

第二十五條 坑内保安係員一人ノ監督スヘキ鑛夫數ハ七十人以下ト爲スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ百人迄之ヲ増加スルコトヲ得

第二十六條 可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵ノ爆發ニ備フル爲救護隊ヲ設ク但シ二以上ノ石炭坑ヲ通シテ之ヲ設ケ又ハ他ノ鑛業權者ト共同シテ之ヲ設クルコトヲ妨ケス

救護隊ノ組織及練習課程竝ニ主要ナル器具、機械、用品ノ種類及數量ニ付テハ鑛山監督局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 鑛山監督局長ハ實地ノ狀況ニ依リ商工大臣ノ認可ヲ受ケ本則ノ規定ノ一部ヲ適用セサルコトヲ得

第二十八條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ通氣量、可燃性瓦斯含有率、通氣裝置又ハ鑛夫數ニ付第四條、第六條、第九條、第二十五條、鑛業警察規則第二十三條第一項及條三十五條第二項第二號ノ規定ニ拘ラス必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 鑛山監督局長已ムヲ得サル事由アリト認ムルトキハ實地ノ狀況ニ依リ第一條ノ指定後一年以内ニ於テ期間ヲ定メ第二條乃至第十條、第十六條、第二十一條、第二十二條、第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

前項ノ斟酌ヲ受ケントスル者ハ第一條ノ指定アリタル後二十日以内ニ適用斟酌ノ申請ヲ爲スヘシ

第三十條 本則ハ國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

附 則

本則ハ昭和五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附 則

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛業ニ於ケル雇傭就業規則及砂鑛夫名簿等ニ關スル件

(昭和十六年五月十四日厚生省令第十八號)

砂鑛業ニ於ケル雇傭就業規則及砂鑛夫名簿等ニ關スル件

砂鑛業ニ於ケル雇傭就業規則及砂鑛夫名簿等ニ關スル件

三一八

第一條 砂鑛法第二十三條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル砂鑛業トハ常時五十人以上ノ砂鑛夫ヲ使用スルモノトス

前項ノ砂鑛業ニ於ケル砂鑛夫ノ雇傭就業規則ニ關シテハ鑛夫就業扶助規則第一條、第二條及第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第二條 砂鑛權者ノ砂鑛業事務所ニ備置クヘキ砂鑛夫名簿ニ關シテハ鑛夫就業扶助規則第三條及第四條ノ規定ヲ準用ス

第三條 砂鑛權者ハ砂鑛夫ノ雇傭又ハ就業ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ報告スヘシ

第四條 雇傭就業規則ニ違反シタル砂鑛權者ハ百圓以下ノ罰金又ハ料ニ處ス

砂鑛法施行細則第二十一條ノ規定ニ依リ砂鑛業代理人ヲ置キタルトキハ砂鑛權者ニ適用スヘキ本令ノ罰則ハ之ヲ砂鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ昭和十五年法律第百三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年六月一日ヨリ施行）

鑛夫就業扶助規則

（大正五年八月三日）
（農商務省令第二十二號）

改 正

大正五年十二月農商務省令第二十九號、同十五年六月內務省令第一七號、昭和二年五月同第三〇號、同三年九月同第三〇號、同四年六月同第二五號、同十一年七月同第二二號、同十二年十二月同第五五號、同十四年五月厚生省令第九號、同十六年四月同第一三號、同年五月同第一七號改正

第一條 鑛業法第七十五條ノ規定ニ依ル雇傭就業規則ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ鑛業著手前鑛山監督局長ニ其ノ許可ヲ申請スヘシ

- 一 業務ノ種類
 - 二 雇入ノ手續
 - 三 解雇ノ事由及手續
 - 四 解雇ノ場合ニ於ケル歸郷旅費支給ニ關スル事項
 - 五 賃金ノ支拂方法及支拂期日
- 鑛夫就業扶助規則

三一九

鑛夫就業扶助規則

三二〇

- 六 石炭鑛業ニ在リテハ檢炭ニ關スル事項
- 七 鑛夫ノ貯金其ノ他ノ積立金ヲ管理スルトキハ其ノ方法、拂戻ノ事由及手續
- 八 鑛夫ノ負擔ニ屬スル作業用品目
- 九 業務別就業時間及就業時ノ轉換方法
- 十 休日
- 十一 國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ終了セサル學齡兒童ヲ雇備スルトキハ就業ニ關シ必要ナル事項
- 十二 賞與及制裁ノ定メルトキハ之ニ關スル事項
- 第二條 採掘權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ就業時間、就業時ノ轉換方法及休日ニ關スル事項ニ付雇傭就業規則ニ依ラサルコトヲ得
- 第三條 就業權者鑛夫ヲ雇入レタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
 - 一 氏名
 - 二 生年月日
 - 三 本籍
 - 四 履歷ノ要領

- 五 鑛夫十六歳未満ナル場合ニ於テハ國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル學校名及修了年月、國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨
- 青年學校令ニ依リ就業セシメラルヘキ者ニシテ十六歳未満ノモノニ在リテハ其ノ就業スル青年學校名、入學シタル學年及入學ノ年月
- 六 業務ノ種類
- 七 雇入ノ年月日
- 八 雇傭期間ヲ定メタル者ニ在リテハ其ノ期間
- 前項ノ規定ニ依リ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ
- 第四條 就業權者鑛夫ヲ解雇シ又ハ鑛夫死亡シタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記入シ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ五箇年以上之ヲ保存スヘシ
 - 一 解雇又ハ死亡ノ年月日
 - 二 解雇ノ事由又ハ死亡ノ原因
- 第五條 就業權者ハ鑛夫ヲシテ一日ニ付十時間ヲ超エテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛夫就業扶助規則

三二一

鑛夫就業扶助規則

三二二

鑛業權者ハ監視ヲ主トスル業務又ハ間歇的ナル業務ニ従事スル者ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第六條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス
鑛業權者ハ選炭作業ニ従事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條ノ二 鑛業權者ハ溫度攝氏三十度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第七條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス石炭鑛業ニ在リテハ十六歳未満ノ者及女子、其ノ他ノ鑛業ニ在リテハ十六歳以上ノ女子ヲシテ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ午後十一時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

第七條ノ二 坑内ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入りタル時ヨリ坑口ヲ出タル時迄ノ時間ヲ其ノ就業時間ト看做ス

業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑及出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付入坑終了ヨリ出坑終了迄ノ時間ヲ其ノ團ニ屬スル鑛夫ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者坑口ニ近キ坑内ノ鑛夫點檢場所ニ關シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第八條 鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル時間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第九條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クとも三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クとも一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設クヘシ

第十條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クとも二回ノ休日ヲ設ケ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合ニ於テハ少クとも四回ノ休日ヲ設クヘシ

第十一條 鑛業權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限り第五條第一項、第六條及第六條ノ二第一項ノ規定ニ拘ラス就業時間ヲ延長シ第七條及第八條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得但シ緊急ノ必

鑛夫就業扶助規則

三二三

鑛夫就業扶助規則

三二四

要ニ應スル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス
前項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ様式第四號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ
第十一條ノ二 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス
鑛業權者ハ主トシテ薄層ヲ掘採スル石炭坑ニ就業スル鑛夫ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規
定ニ依ラサルコトヲ得

第十二條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ左ニ掲グル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ運轉中ニ於ケル掃除、注油、
検査又ハ修理

二 機械又ハ動力傳導裝置ノ運轉中ニ於ケル調帶若ハ調索ノ危險ナル方法ニ依ル取附又ハ取外

三 汽罐ノ焚火、給水弁若ハ阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱

四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器、變壓器又ハ「コットレル」集塵裝置ニ屬スル整流機ノ取扱

五 高壓電線ノ接続

六 機械力ニ依リ運轉スル捲揚機ノ取扱

七 運轉中ノ車輛ノ連結又ハ分離

八 鑛物ノ掘採及岩石ノ掘鑿

九 爆發藥ノ裝填又ハ點火

十 支柱ノ取附又ハ取外

十一 製鍊作業ニ於テ熱灼若ハ熔解セル鑛物又ハ鑛滓ノ取扱

十二 有害ナル煙塵ノ堆積セル煙道又ハ煙突ノ掃除

十三 砒素、水銀、鉛若ハ亞鉛又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸汽又ハ瓦斯
ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

十四 電解精鍊ヲ爲ス場所ニ於ケル業務

十五 鑛石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務

第十三條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者ヲシテ左ニ掲グル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、「チアンカリウム」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトリ
ン其ノ他之ニ準スヘキ毒性又ハ劇性料品ノ取扱

二 揮發油、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性料品ノ取扱

三 土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

第十四條 鑛業權者ハ左ニ掲グル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五
號ニ掲グル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 精神病

二 癩、肺結核、喉頭結核

鑛夫就業扶助規則

三二五

鑛夫就業扶助規則

三二六

- 三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病
 - 四 梅毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
 - 五 膿漏性結膜炎、「トラホーム」(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病
- 鑛業權者ハ助膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス
- 鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサルモノヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 鑛業權者ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第十六條 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限り其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者坑内作業ニ従事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受

ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス坑内作業ニ従事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘサルコトヲ得

第十七條 鑛夫業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ本則ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鑛夫ノ解雇ニ因リテ變更セラレルコトナシ

第十八條 鑛夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鑛業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第十九條 鑛夫療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ

鑛夫ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

第二十條 鑛夫ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ鑛業權者ハ別表ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ賃金百八十分(其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チサルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ルコトヲ得ス

別表ニ掲クル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス

鑛夫就業扶助規則

三二七

ハシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上ク但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ

一級

二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ

二級

三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ

三級

別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應シ別表ニ掲グル身體障害ニ準シ障害扶助料ヲ支給スヘシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スヘシ

第二十條ノ二 鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且鑛業權者其ノ事實ニ付鑛山監督局長ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第二十一條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金四百日分(其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿テサルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第二十二條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿テサルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第二十三條 遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ハ鑛夫ノ配偶者トス
配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ハ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル鑛夫ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十四條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス

四 前二號ニ掲グル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十五條 第二十三條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲グル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ鑛夫ノ遺言又ハ鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲グル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

- 一 鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主
 - 二 鑛夫ノ兄弟姉妹ニシテ鑛夫死亡當時之下同一ノ家ニ在ル者
 - 三 鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者
- 鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依ル指定アリタルトキハ鑛業權者遲滯ナク之ヲ鑛夫名簿ニ記載スヘシ

第二十六條 第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ
障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遲滯ナク之ヲ支給スヘシ但シ鑛業權者カ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得
遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スヘシ
鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ二 鑛夫健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ
鑛夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條 第十八條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル鑛夫療養開始後三箇年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セサルトキハ鑛業權者ハ賃金五百四十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿テサルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓)ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコト

第二十七條ノ二 鑛業權者豫メ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ鑛業權者及鑛夫ノ出捐スル共済組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本則ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セス
鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十八條 鑛業權者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 鑛夫ノ解雇後一箇年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一箇年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

鑛夫就業扶助規則

二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ鑛夫ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第二十九條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額

二 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三日間(雇入後三月ニ滿タサルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

二 産前又ハ産後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間

三 試ノ雇傭期間

四 鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ定ム

第三十條 鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ鑛夫ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、別表ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第三十一條 鑛業權者ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ鑛業著手前之ヲ鑛山監督局長ニ届出ヘシ

鑛業權者扶助規則ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十三條 鑛業權者扶助ヲ爲シタルトキ又ハ第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ様式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十四條 鑛夫就業中又ハ事業場内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滞ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

鑛夫就業扶助規則

鑛夫就業扶助規則

三三四

第三十四條ノ二 採掘權者ハ様式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸郷旅費支給ノ狀況ヲ、様式第三號ニ依リ同條同項第七號ノ貯金其ノ他ノ積立金ノ狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十五條 鑛業權者ハ坑外ニ於テ就業スル鑛夫ニ付始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

鑛業權者ハ坑内ニ於テ就業スル鑛夫ニ付テハ入坑ノ時刻及出坑ノ時刻並休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ入坑時刻ハ入坑ノ開始及終了ノ時刻、出坑時刻ハ出坑ノ開始及終了ノ時刻トス

鑛業權者ハ所定ノ入坑時刻又ハ入坑開始時刻前ニ入坑シタル者及所定ノ出坑時刻ハ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付様式第五號ニ依リ記録スヘシ

前項ノ記録ハ事由ノ發生シタル日ヨリ三年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條 鑛業權者ハ雇傭就業規則及扶助規則ヲ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ周知セシムヘシ

第三十七條 鑛業權者ハ鑛夫ノ雇傭、就業又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十八條 雇傭就業規則ニ違反シタル採掘權者又ハ第三十一條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條 鑛業權者ヲシテ不正ニ扶助義務ノ全部又ハ一部ヲ免レシメ又ハ免レシムトスル所爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條 (削除)

第四十一條 鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本則ハ第三十八條、第三十九條及前條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス但シ國ノ鑛業ニ於ケル鑛夫及其ノ遺族ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

附則

第四十三條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條 第五條ノ規定ハ本則施行前ヨリ十歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ本則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ其ノ鑛夫ノ氏名及生年月日ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第四十五條 第八條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一年六箇月間、第十四條、第十五條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間之ヲ適用セス

第四十六條 鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則並扶助規則ニシテ本則施行前ニ許可ヲ受ケタルモノニ付

鑛夫就業扶助規則

三三五

鑛夫就業扶助規則

三三六

テハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間ハ仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得但シ本則ノ規定ニ違背スルモノハ本則施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ
第四十七條 第四十四條第二項又ハ前條但書ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則 (大正十五年六月内務省令第一七號)

本令ハ大正十三年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年七月一日ヨリ施行)
本令施行前ニ許可ヲ受ケタル雇傭就業規則ニシテ本令ニ依リ變更ヲ要スルモノハ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ
従前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

本令(第三條ノ改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

附 則 (昭和三年九月内務省令第三〇號)

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ第七條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セ

ス

第十一條ノ二ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セス

附 則 (昭和十一年十二月内務省令第五五號)

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前支給事由ヲ生シタル扶助ニ付テハ仍従前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル者本令施行後引續キ休業扶助料ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

附 則 (昭和十六年五月厚生省令第一七號)

本令ハ昭和十五年法律第百二號(第十條ノ改正規定ヲ除ク)施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際他ノ省令ニ於テ「鑛夫勞役扶助規則」トアルハ「鑛夫就業扶助規則」トス
様式中「鑛夫勞役扶助規則」トアルハ「鑛夫就業扶助規則」トス

(別表)

鑛夫就業扶助規則

三三七

第五級一	第六級一	第七級一
一 眼ヲ失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ 一 上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 一 下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ 一 上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 一 下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 一 十趾ヲ失ヒタルモノ	一 兩眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ 一 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 一 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳鼓ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ 一 脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ 一 上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一 下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ 一 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ	一 眼ヲ失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ 賃金二百五十日分但シ
賃金三百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ二百八十圓、夫々八十圓トス	賃金三百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百四十圓、女子ニ在リテハ二百四十圓、夫々二百四十圓トス	其ノ金額男子ニ在リテハ二百圓、女子ニ在リテハ二百圓、夫々二百圓トス

第八級一	第九級一	第十級一
一 眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 一 頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ 一 神經系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ 一 一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ 一 一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ	一 鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十分以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ 一 精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ 一 胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ 一 一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ 一 一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ 一 一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ 一 十趾ノ用ヲ廢シタルモノ 一 女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ 一 兩側ノ睾丸ヲ失ヒタルモノ	賃金二百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ八十圓、女子ニ在リテハ八十圓、夫々六十圓トス

鑛夫就業扶助規則

第九級一	第十級一
<p>六 一 下肢ヲ五種以上短縮シタルモノ</p> <p>七 一 上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>八 一 下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>九 一 上肢ニ假關節ヲ殘スモノ</p> <p>十 一 下肢ニ假關節ヲ殘スモノ</p> <p>十一 一 足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>九 一 一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>十 一 足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ</p> <p>十一 一 足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ</p>
<p>一 兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ</p> <p>二 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ</p> <p>三 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ</p> <p>四 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ</p> <p>五 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ</p> <p>六 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ</p> <p>七 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ</p> <p>八 一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>一 一眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ</p> <p>二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ</p> <p>三 十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ</p> <p>四 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳鼓ニ接セザレハ大聲ヲ解シ得サルモノ</p> <p>五 一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>六 一手ノ拇指ヲ用テ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ</p> <p>七 一 下肢ヲ三種以上短縮シタルモノ</p> <p>八 一 足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ</p>
<p>賃金百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百二十圓、女子ニ在リテハ七十圓ニ滿チサル又ハ七十五圓トス</p>	<p>賃金百二十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ九十圓、女子ニ在リテハ六十圓ニ滿チサル又ハ六十圓トス</p>

第十一級一	第十級一
<p>二 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ</p> <p>三 一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ</p>	<p>一 兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ</p>
<p>賃金九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四十圓、女子ニ在リテハ二十五圓ニ滿チサル又ハ四十圓トス</p>	<p>賃金九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四十圓、女子ニ在リテハ二十五圓ニ滿チサル又ハ四十圓トス</p>

鑛夫就業扶助規則

鑛夫就業扶助規則

第十二級一	八 七 六 五 四	<p>鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聴力四十 厘以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ 脊柱ニ畸形ヲ残スモノ 一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ 一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以 外ノ二指ノ用ヲ廢シタルモノ 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	十五圓トス
九 八 七 六 五 四 三 二	<p>一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ 残スモノ 一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ残スモノ 七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ 一耳ノ耳鼓ノ大部分ヲ缺損シタルモノ 鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸 形ヲ残スモノ 一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ残ス モノ 一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ残ス モノ 長管骨ニ畸形ヲ残スモノ 一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	<p>賃金六十日分但シ其ノ 金額男子ニ在リテハ五 十圓、女子ニ在リテハ 三十圓ニ滿チサルトキ ハ夫々五十圓又ハ三十 圓トス</p>	

第十三級一	十 十一 十二 十三 十四	<p>一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾 ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタル モノ 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ 局部ニ頑固ナル神経症狀ヲ残スモノ 男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ残スモノ 女子ノ外貌ニ醜狀ヲ残スモノ</p>	<p>賃金四十日分但シ其ノ 金額男子ニ在リテハ三 十圓、女子ニ在リテハ 二十圓ニ滿チサルトキ ハ夫々三十圓又ハ二十 圓トス</p>
九 八 七 六 五 四 三 二	<p>一眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ 一眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ残スモノ 兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘ス モノ 一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ 一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ 一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ 一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ 一下肢ヲ一軀以上短縮シタルモノ 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ</p>	<p>賃金六十日分但シ其ノ 金額男子ニ在リテハ五 十圓、女子ニ在リテハ 三十圓ニ滿チサルトキ ハ夫々五十圓又ハ三十 圓トス</p>	

鑛夫就業扶助規則

鑛夫就業扶助規則

備考

- 一 本表ハ十二月三十一日現在ニ依リ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ十二月三十一日前ニ休業シタル鑛業ニ在リテハ休業ノ際ノ狀況ニ依リ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ
- 二 本表ニハ信認金、積立金其ノ他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス鑛夫ノ貯蓄金ニシテ鑛業權者ノ管理スルモノヲ記載スヘシ
- 三 既ニ解雇シタル鑛夫ノ貯蓄金ニシテ住所不明其ノ他ノ事由ニ因リ返還スルコト能ハサルニ依リ之ヲ管理スル場合ニハ其ノ員數及金額ヲ記事欄ニ記載スヘシ
- 四 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

(様式第四號)

登録第		種 類		就 業 所		氏 名		延 時 間		深 夜 就 業 時 刻		其 他 臨 時 就 業		昭 和 年 月 分	
月 日	種 類	場 所	氏 名	男 女 少 者 別	時 間	業 時 刻	臨 時 就 業	住 所	住 所	何 某 印	何 某 印	事 由	事 由	年	月 分

緊急ノ必要ニ因ル臨時就業届

號

記事	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號

備考

- 一 本届出ハ其ノ寫ヲ作成シ届出後三年間之ヲ鑛業事務所ニ保存スヘシ
- 二 本届出ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ取纏メ差出スヘシ
- 三 就業場所欄ニハ本人ノ就業場所ヲ詳記スヘシ十六歳未満ノ者女子ナル場合ニ其ノ場所カ第六條ノ二第一項ニ規定スル場所ニ該當スルトキハ其ノ旨記載スヘシ
- 四 氏名欄ニハ他ノ記載事項ノ同一ナルモノニ付テハ「何某外何名」ヲ記載シ各個ノ氏名ヲ省略スルコトヲ得
- 五 男女年少者別欄ニハ十六歳以上ノ男ハ「男」、十六歳未満ノ男ハ「年少」、女ハ年齢ニ拘ラズ「女」ト記入スヘシ

鑛夫就業扶助規則

礦夫就業扶助規則

「女」ト記載スヘシ

- 五 入坑時刻欄及出坑時刻欄ニハ其ノ者ノ入坑時刻及出坑時刻ヲ記載スヘシ但シ第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シタルモノニ付テハ入坑時刻欄ニハ所定入坑終了時刻ヲ記載スヘシ
- 六 延長時間欄ニハ其ノ者ノ入坑ヨリ出坑迄ノ時間カ第五條第一項又ハ第六條ノ二第一項ノ時間ヲ超エタル場合ニ於テ其ノ超エタル時間ヲ記載スヘシ
- 第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シ所定ノ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付テハ前項ノ延長時間ノ計算ニ關シテハ所定入坑終了時刻ヲ其ノ者ノ入坑時刻トス
- 七 深夜就業時刻欄ニハ第七條ノ定ムル就業禁止時刻中ニ就業セシメタル十六歳未満ノ者若ハ女子ニ付其ノ就業時刻ヲ記載スヘシ
- 八 事由欄ニハ前二號ニ該當スル場合ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ
- 九 第七條ノ二第三項ノ許可アル場合ニハ坑内ノ點檢場所ヲ以テ坑口トス (終)

昭和十七年七月二十五日 印刷
昭和十七年七月二十八日 發行

定價 五圓五拾錢

送料 (内地二十錢
外地六十錢)

著者 江川 六兵衛

考備

町四ノ五

與市

口川町一〇

一郎

口川町一〇

株式會社

東一七五〇九

日	月	年	號	冊
			932	93

鉱業法解説

製本控

版部

六七番
〇五一七番
一九三一番

配給元

東京市神田區
淡路町二ノ九

日本出版配給株式會社

鐵夫就業扶助規則

「女」ト記載スヘシ

- 五 入坑時刻欄及出坑時刻欄ニハ其ノ者ノ入坑時刻及出坑時刻ヲ記載スヘシ但シ第七條ノ二第
二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シタルモノニ付テハ入坑時刻欄ニハ所定入
坑終了時刻ヲ記載スヘシ
- 六 延長時間欄ニハ其ノ者ノ入坑ヨリ出坑迄ノ時間カ第五條第一項又ハ第六條ノ二第一項ノ時
間ヲ超エタル場合ニ於テ其ノ超エタル時間ヲ記載スヘシ
- 第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シ所定ノ出坑終了時刻後ニ出
坑シタル者ニ付テハ前項ノ延長時間ノ計算ニ關シテハ所定入坑終了時刻ヲ其ノ者ノ入坑時刻
トス
- 七 深夜就業時刻欄ニハ第七條ノ定ムル就業禁止時刻中ニ就業セシメタル十六歳未満ノ者若ハ
女子ニ付其ノ就業時刻ヲ記載スヘシ
- 八 事由欄ニハ前二號ニ該當スル場合ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ
- 九 第七條ノ二第三項ノ許可アル場合ニハ坑内ノ點檢場所ヲ以テ坑口トス (終)

昭和十七年七月二十五日 印刷
昭和十七年七月二十八日 發行



定價 五圓五拾錢

送料 (内地二十錢
外地六十錢)

著者 江川 六兵衛

發行者 東京市日本橋區本町四ノ五
中村 與市

印刷者 東京市小石川區東古川町一〇
渡邊 一郎

印刷所 東京市小石川區東古川町一〇
中外印刷株式會社
(東京一七五〇九)

發行所 東京市日本橋區
本町四丁目五番地
法律新聞社出版部
振替東京七六七番
電話日本橋(24)一〇五一七番
一九三一七番

發行所

配給元

東京市神田區
淡路町二ノ九

日本出版配給株式會社

832
83

終